

私立 千葉工業大学

取組名称 学生の孤立化を解消する就職支援プログラム

取組担当者 キャリアセンター キャリアオフィス 課長 磯海 善隆

1. 本学の概要

千葉工業大学は1942(昭和17)年5月、当時の社会的要請に沿って東京都町田市に「興亜工業大学」の名称で設立された。創立時は3学科定員160名の私立工業単科大学として、我が国で最も歴史が古い大学である。

1946(昭和21)年に校舎を千葉県君津市に移転し、名称も「千葉工業大学」と改称した。現在の習志野市に移転したのは、新制千葉工業大学に移行した1950(昭和25)年のことである。

現在では、工学部6学科、情報科学部2学科、社会システム科学部2学科(2009(平成21)年4月より3学科)、大学院工学研究科、情報科学研究科、社会システム科学研究科という日本でも有数の工業大学としての規模を誇り、約10,000名の学生が学んでいる。

本学は創立当初からの建学の精神である「師弟同行」、「自学自律」を堅持しつつ、「科学技術の厳しい変化に対応できるしっかりした基礎学力を持つ学生の育成」を教育目標に定めている。

2. 本取組の概要

本学は「目標を持って学生生活を過ごし、社会や組織で存在感を持って活躍できる能力の育成」を目的に支援を行っている。しかし、未内定者や就職活動に不安を抱えている学生の中には、孤立化傾向が見られる。そのため、新たに低学年からのグループワーク型人材育成プログラム(①個人：目標に向かって、自分をコーディネートしていく能力②組織：相手と知識の交換や共有をし、知識を持ち寄り、新たなものをつくるコラボレーション能力)を習得させ、組織の中で十分に能力を発揮するための判断や意思決定を実践させる学生提案型の「ものづくり支援」を今年度を実施する。

Web就職支援システムは、学生自身で就職情報の加工ができ、学生同士の体験等の情報交換も可能であ

る。また、保護者にキャリアカウンセリングの基本講座(キャリアフォーラム)を開設して、教職員と一体となって支援する。学生生活の総合的な支援により、中途退学やニート・早期退職の防止、内定取消しにも効果を上げたい。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本取組においては、入学時より精神的な「孤立感」を抱かない環境づくり、学生が学生生活を通して人間関係を構築する能力を育成する支援の実施により、学生を取り巻く就職支援体制の充実を図る。学生の適性や希望を考慮したグループワーク型講座を通して、孤立化の解消だけでなく、学生が様々な組織の中で専門知識と人間力を十分に発揮し、存在感を持って活躍できる人材を育成する。

(2) 達成目標

全学生が社会や組織の中で自己の能力を遺憾なく発揮する人間力の育成を目標として、就職支援講座の開設・キャリアアプローチによるプレメントテストや授業満足度の調査を実施する。個人(社会性・モラル、積極性、環境適応力、ストレス耐性)、組織(他者理解力、説得力、状況理解力、コミュニケーション力)の確認と能力向上を図り、更にメンター制度(学生10名/教員)の相談により孤立化を防止する。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

本取組は、採択された「学生の孤立化を解消する就職支援プログラム」における学生の入学時より精神的な「孤立感」を抱かない環境づくりや人間関係を構築する能力を育成する支援を実施する。学生を取り巻く就職支援体制の一層の充実・発展を目指す取組であり、内容は以下のとおりである。

(1) キャリア形成支援講座の実施

具体的な講座内容として、1年生対象「自己表現法」がある。本講座は、他学科の学生との交流関係を、グループワーク等を通して形成する。人間関係を円滑に行うためのコミュニケーションの取り方や、ものの方や考え方を広く深くするための「気づき」活用方法を身に付け、実践することにより、学生生活を充実させる知恵を学ぶ。

2年生対象にキャリア教育（進路を考える）の開講とともに、当該科目を受講するよう啓蒙する。この科目は他学科の学生との交流関係を深め、グループワークを通し、コミュニケーション能力向上を図る。また、21世紀型企業社会が理工系学生に求める人材要件を理解し、将来に向けてキャリアビジョンの形成方法について学ぶ。また、大学生活の目的を明確にし、自己価値形成の方法を習得する。そして、就職成功に向けて活動研究方法を学ぶ。

到達目標として、21世紀社会が求める人材になるため、大学生活（キャンパスライフ）の目的づくりと実行方法を学び、自己価値発見と形成を習得する。また、将来に向けてキャリアビジョンの設計方法を学び、キャリアビジョンに向かって社会との関わり方、基本とビジネススキルの習得方法をつかみ、各自が就職計画を確実にする。



写真1 キャリア教育「進路を考える」

(2) 保護者及び学生向けキャリアフォーラム開催

保護者及び学生向け就職講座として、就職状況や就職活動への取り組み方について知りたいという要望に応えるためのキャリアフォーラムを開催（水戸・宇都宮）した。本プログラムは就職という人生の大切な節目を前に学生本人の孤立化を招かないよう、親子、家族でどのような協力関係を築くべきかを、具体的な題材を基に講演していただき、参加した保護者の方同士

が意見交換する内容とした。保護者からは「子供が積極的に就活に向かえるよう、親としてしっかりサポートしていきたい」、「具体的な就活スケジュールが知りたい」等、今後の親子の会話に積極的に取り組む姿勢が見られ、十分な成果が得られたと感じる。

また、本学の父母会ともタイアップして、次年度以降の開催を要望された。



写真2 親子の絆セミナー

(3) 就職支援の各種講座の開講

キャリア養成期における就職準備講座（自己分析・表現力UPの講座等）及び個別支援体制の構築をする。学部3年生・修士1年生の後期に進路ガイダンスや各種講座（エントリーシートの書き方・就職講演会・マナー講座・課題解決型グループワークを中心とした講座等多数）の開講をする。

学部3年生・修士1年生対象には業界・職種研究として、多数の企業担当者からご説明をいただいている。

エントリーシート対策講座は入門編が「自己PR」、「自己分析」の講義、実践編は「エントリーシートを記入、振り返り編は添削結果を基に、よりアピールす



写真3 就活マナー講座

るための指導を行っている。

また、日本経済新聞の記事を使い、会社とは何か、会社はどのような活動をしているかなどについて解説する講座やSPI模擬テストの対策講座を実施している。就活マナー講座は挨拶やお辞儀の仕方、発声等をワークを通して実施している。

(4) 就職支援システムの強化

本学学生のみ使用可能である就職システムは進路希望調査をWeb登録するよう指導している。登録後、学生はキャリアセンター主催の各種支援行事や学校推薦、個人面談予約、進路報告が可能である。なお、希望業種・希望職種・希望勤務地に応じて登録したメールアドレス宛にメールが配信される仕組みをとっている。

また、学部1年生から求人票や卒業した学生が進路報告をした体験記を検索できる機能を閲覧可能としている。

Web就職支援システムの拡充として今後は学生間でも情報交換できる仕組みを構築する予定であり、未内定卒業や内定取消卒業生への対応を行う。

(5) 学生の孤立化を防ぐものづくり支援

低学年（学部1・2年生）を中心にグループによる工学の基礎である「ものづくり」に興味を持ってもらうため、仲間とともに共同作業を体験する。テーマはものづくり（ハードウェア、ソフトウェア等を含む）に関する分野で、学生自身の発案による提案型を対象とする。近年、自発的な活動を養う環境が少なくなっている現状を鑑み、仲間とともに作業をすすめることで学生自身の自主性・創造性・積極性・協調性を育み、ものを作る楽しさ・難しさを体験することができる。

これらを通じて、採択された取組をさらに充実・発



写真4 ものづくり支援

展させ、就職支援の充実を図ることが、本取組の内容である。

実施体制としては学長を中心に教職員が連携して本取組を実施している。具体的には、従来のクラス担任制に加え、2007(平成19)年度より入学者の所属学科教員が学生10名程度を担当して助言・支援を行う「高校から大学への移行プログラム」を実施した。事務局でも学生センターを設置するとともに、出席管理システムによる「学生カルテ」を利用し、欠席しがちな学生への支援体制が確立している。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では、学部・学科を横断的に組織する就職委員会とキャリアセンターが連携し、支援プログラムの検証と分析を講座毎にアンケートやプレメントテストを実施し、学生の能力・支援方法・活動状況の評価を行う。また既に実施している学生支援施策と関連させ、FD委員会：授業満足度調査、学生委員会：学生生活アンケートの結果も集約し、総合的評価体制で行う。

達成目標に対する達成度についての指標として、学生自らが支援講座の総合評価と演習等の内容毎の評価を、①受講前と受講後にどう変わったのか②能力開発において自分の「強み・弱み」に気付き、新たな動機づけになったか③プログラムの成果、以上の3点について5段階で満足度を指数化し、達成度としては4以上の評価を得る。社会情勢の影響もあるが、未就職卒業生（ニート）の2%の減少と就職決定率の95%以上を目標とする。

6. 本取組の実施計画等

本取組では、孤立化を防ぎ、社会等で存在感を持って活躍できる能力の育成効果を実証するため「動機づけ・気づき」「考え・行動」させるグループワーク型講義・演習を開講し、①キャリア準備期②キャリア養成期③キャリア実践期、と段階的に能力開発を行う。またWeb就職支援システムの拡充（内定取消し・卒業生対応）保護者向け就職講座を開講し、目標を達成する。

財政支援期間終了後の展開として、本取組の実施にかかる人的資源は、本学教職員や外部講師で行うが、段階的に教職員が担当できるように、SDの一環としてスキルアップに向けた研修を行う。受講した学生か

ら選抜を行い、支援教育をした後ピアサポートを取り入れ、学生参加の循環型支援プログラムとする。本支援プログラム終了後は、正課授業や課外活動及び学生支援策と連携し、総合学生生活支援へ発展させる。

「4. 本取組の具体的内容・実施体制」にも記載した以下の(1)～(5)の事業実施計画から得られる具体的な成果を事業内容と対応させて記載する。

(1) キャリア形成支援講座の実施

(2009(平成21)年9月～2010(平成22)年1月)

キャリア教育(進路を考える)の授業がグループワーク形式(1チーム2～4名)により、通常の座学形式の授業では身に付くことが難しいコミュニケーション能力が修得できる。また、学生が大学生生活(キャンパスライフ)の目的づくりと実行方法を学び、自己価値発見形成を習得できる。また、将来に向けてキャリアビジョンの設計方法を学び、キャリアビジョンに向かって社会との関わり方、基本となるビジネススキルの習得方法をつかみ、就職計画を確実にする。

(2) 保護者及び学生向けキャリアフォーラム開催

(2009(平成21)年9月～2010(平成22)年2月)

就職環境についての現状理解とともに、学生が就職活動を行う際には保護者の協力が重要である。職員が保護者との意見交換を通し、保護者のニーズに向けた今後の具体的な支援対策と学生の就職活動状況をフィー

ドバックし、密度の高い支援をする。

(3) 就職支援の各種講座の開講

2009(平成21)年9月～2010(平成22)年3月)

各種講座開講を通して、学生がスムーズかつ効率的に就職活動を行う際の試験・エントリーシートや面接対策がより一層の向上が図られる。

(4) 就職支援システムの強化

(2009(平成21)年9月～2010(平成22)年1月)

Web就職支援システムの拡充をすることで、学生がより迅速かつ使いやすい就職情報の収集と就職支援を受けられる。また、保護者も求人検索が可能となり、学生と同様の情報を共有することができる。併せて卒業生へ求人情報を提供している。

(5) 学生の孤立化を防ぐものづくり支援

(2009(平成21)年9月～2010(平成22)年3月)

ものづくりのグループには、作業に必要な場所や工具などが提供される。また、グループには、教職員・卒業生がアドバイザーとして就き「ものづくり」に必要な助言を行う。作品は、完成した時点で学内外において発表するとともに、3月に学内で全作品の発表会の機会を設ける。

この際、優れた作品には大学祭、オープンキャンパス等で展示することとする。